



23年度から市内の小中学校で行っている「もち給食」

平成30年度 教育行政方針

学びの風土を礎に 心豊かにたくましく 郷土の誇りを未来につなぐ 一関の人づくり



小菅正晴教育長が第65回市議会定例会で述べる

はじめに

教育を取り巻く環境は多様に変化しています。グローバル人材の育成、キャリア教育の推進、子供の状況に応じた特別支援の充実、いじめ防止などの対策、人格形成の基礎を培う幼児教育の振興など、学校教育の質の向上が求められています。また、市民の学習意欲に応じた多様な学習機会の提供や、先人からの文化を受け継いでいくこと、文化財を保護し、活用することが求められています。

少子化が進む中で、一関の持続的な発展のためには、将来を担う健康やかな人材の育成が欠かせません。子供たちがふるさと一関に誇りを持ち、地域を支える人材に成長するよう、教育行政を推進します。

重点的に取り組む施策

30年度は、教育振興基本計画の前期計画3年目です。目標に掲げた「学びの風土を礎に、心豊かにたくましく郷土の誇りを未来につなぐ一関の人づくり」の実現に向けて、4つのプロジェクトを重点としながら計画を着実に推進します。

一つ目は、「ことばと読書」「ことばの響き」「ことばの先人」を柱として、子供たちに、語彙の豊かさ、ことばの感性、心の豊さを育むことを目指す「**ことばを大切に**する教育プロジェクト」です。

「ことばと読書」では、学校図書館と市立図書館との連携や読書普及員の配置により、児童生徒の読書活動を推進します。

「ことばの響き」では、幼稚園などや小学校で「ことばの時間」を設定し、ことばの力を育て、心の豊かさを育みます。「ことばの時間」は、現在、市立の幼稚園、こども園の全園と4つの保育園、合計17園で実施しています。30年度は市立の全園に拡大して実施します。

小学校では、俳句、短歌、詩などや当市ゆかりの先人を取りあげて独自に作成した「ことばのテキスト『言海』」を使って、モデル校6校で音読・素読に取り組んでいます。30年度は全小学校で実施します。

「ことばの先人」については、博物館学芸員を小中学校に訪問させ、先人を学ぶ授業を行います。郷土を知り、郷土への誇りを育みます。二つ目は、グローバル化していく現代社会に対応できる人材の育成を目指す「**グローバル人材育成**プロジェクト」です。



ことばのテキスト「言海」を使った音読の授業

きめ細かに支援します。

●**いじめへの対応**
各学校の「いじめ防止基本方針」に基づいた組織的な対応により、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めるとともに、一関市いじめ問題対策連絡協議会の開催などを通じて、関係機関との情報共有や連携強化を図ります。

●**幼稚園**
小学校と連携し、就学前教育を充実するほか、預かり保育や低所得者層への教材費などの補足給付により、子育て世代を支援します。

●**学校安全**
放射能汚染対策として、学校施設や給食食材などの放射線量を測定します。

また、スクールガードリーダーの巡回指導や地域ボランティアなどの見守り活動の協力をいただきながら、登下校時の児童生徒の安全を確保します。

●**教職員の働き方改革**
業務内容の見直しや勤務時間を意識した働き方を進め、長時間勤務の是正を図ります。教職員がいきいきと仕事に向かうことで、教育の質の確保と向上を目指します。

ともに学び、まちとひとをつくる 社会教育の推進

●**社会教育**
市民が生涯にわたって学ぶこと

プロジェクト

キャリア教育では「地域に学び、地域で育てる」という視点で中学生社会体験事業に取り組みます。

また、中学生最先端科学体験研修や英語の森キャンプの実施、外国語指導助手を幼稚園や小中学校に派遣して英語力の向上を図るとともに、創造性、チャレンジ精神や国際理解などグローバル社会の中で求められる力を培います。

さらに、多文化共生や多様な価値観を理解するため、郷土の先人や歴史・文化を題材にした学習を進めます。

三つ目は、地域とともに歩む学校を目指す「**学校と地域の協働推進プロジェクト**」です。

学校の情報や活動の様子をホームページなどで発信するとともに、保護者や地域住民が学校運営に参加する開かれた学校づくりを進めます。また、地域の人にゲストティーチャーや学校支援ボランティアとして協力をいただき、豊富な社会経験を学校教育に生かすなど地域社会全体で子供たちの健やかな成長を育みます。

四つ目は、骨寺村荘園遺跡の世界文化遺産拡張登録を目指す「**世界遺産拡張登録推進プロジェクト**」です。

29年度までの5カ年で、県・関係市町が骨寺村荘園遺跡をはじめとする構成5資産の調査研究を進めました。文化庁への推薦書案

の提出には至りませんでした。引き続き調査研究を進めるとともに、専門家の助言をもらいながら、県・関係市町と連携して推薦書案作成へ向けた課題を整理します。

●**学校統合**については、30年4月に、現在の千厩小、小梨小、清田小、奥玉小、磐清水小が閉校し、新千厩小が開校します。また、本寺小と厳美小、本寺中と厳美中がそれぞれ統合し、新たな厳美小、厳美中がスタートします。

また、31年度の完成を目指し、東山小の長寿命化改修による新校舎と屋内運動場の建設に取り組みます。さらに、34年4月の開校に向け、花泉地域統合小学校の用地取得や実施設計に取り組みます。

そのほかの地域でも、地域の人や保護者とともに、学校規模の適正化を考えていきます。少子化や保護者ニーズに対応した**幼稚園のこども園化**については、31年4月のいずみの森幼稚園の民間への移管、げいび幼稚園と長坂保育園の統合に向けて、準備に取り組みます。

社会を生き抜く力を育む 学校教育の充実

●**学力の育成**
算数・数学を重点教科に位置づけ、学習支援員の配置による指導を行うほか、「授業改善パンフレット」の活用などにより、各学校の「わ

誇りと愛着を醸成する 文化の継承

●**文化財の保護**
文化財の修繕や保護活動への助成などにより、地域の文化財を良好な形で後世に伝えます。

また、標柱解説板を整備し、当市の歴史や文化の理解促進と文化財保護意識の啓発に努めます。

●**地域文化の伝承**
郷土芸能団体の活動を支援するほか、市が所有する歴史民俗資料などを保存・展示するため、30年度中の開館を目指し、旧洪民小学校舎を活用した施設の整備を進めます。

おわりに

教育委員会制度の改正により、これまでの教育委員長と教育長の職責を併せ持つ新しい「教育長」となりました。改めて身を引き締め、一関の教育のかじ取りを担う重責を全うする所存です。

各施策の推進にあたっては、学校、家庭、地域、企業、行政が共通理解のもと、当市の教育行政に携わる全ての関係者の連携・協働が必要とす。

教育委員会としては、地域資源を生かした施策を進め、一関の伝統を未来に引き継ぎ、新たな創造を加えたいと考えています。皆さんのご理解、ご協力、ご指導を心からお願いいたします。